

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成29年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機 関 名	京都大学	整理番号	U04
プログラム名称	霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院		
プログラム責任者	北野 正雄	プログラムコーディネーター	松沢 哲郎
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養成すべき人材像を国際機関等で活躍する人材、博物館・動物園・水族館のキュレーター（博士学芸員）、一国まるごとアウトリーチに貢献する人材とし、それぞれの養成フィールドを広げるように展開しているので、本プログラムは当初計画を超えて遂行されている。 ・国際的な取組が多様に実施されており、いずれもグローバルに進められている。例えば、フィールドミュージアム構想は南米では国立アマゾン研究所を拠点にしてアマゾン全域で展開しているので、未開地と大都会を包括するグローバルリーダーの養成が期待できる。 ・コースワークについては、実習を主体としてカリキュラムを組み、座学は実習等の妨げとならないように配慮されており、カリキュラムが充実している。特に、「自主フィールドワーク実習」は学生自身が企画して実施するもので、学生の自主性と独創性の向上が期待できる。 <p>コーディネーターを含む8名のヘッドクォーター（HQ）や特定教員（7名）、正副のメンターを配置するなど、学生の指導・支援体制を構築し、グローバルリーダー養成に適した体制が整っている。その支援体制には学生も満足しており、学生の自主性や意欲も高く、順調に運営されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムは、大学全体のカリキュラムに組み込むことが決定している。また、学長自身が8名のHQの一員でもあり、大学と一体となったマネジメント体制が確保されている。 ・優秀な学生の確保については、本プログラムが理学研究科の一専攻なので、研究科入学の段階で極めて厳密な試験に合格する必要がある。一方、編入学生は、自身の研究計画等を書面で提出させ、事前にその計画の組み方等も含めて編入資格審査を受けるので、研究学習能力に長けた優秀な学生が合格している。また、学生数は平成26年度10名、平成27年度21名、平成28年度31名、平成29年度33名と着実に増加しており、男女比は女性が55%、留学生が39%と好ましい比率である。 ・中間評価時の留意事項への対応も速やかに行っており、野生動物の生態観察に小型無人飛行機（ドローン）の活用やポルトガルの野生馬の生態を目視観察記録するための個体識別アプリを開発している。また、霊長類の腸内細菌を分析して天野エンザイム（株）と腸内細菌酵素の応用研究を行うなど、産学連携でプロジェクトの展開範囲を広げている。 ・キャリアパスに関しては、1名の修了者がアメリカの大学教員に就職した。また、学生との意見交換では、国際機関、キュレーター、アカデミア、NGOなど幅広いキャリアパスを学生達は考えている。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムは堅実・着実に遂行されているが、支援期間終了後の経済的支援の定着に努めてほしい。また、一国まるごとアウトリーチは順調に展開しているが、海外だけではなく日本も加え、日本の獣害対策も行ってほしい。併せて、日本をフィールドミュージアム構想に組み入れ、野生動物と農業生産が共生できる国にする道を模索していただければありがたい。 			